

京都美術工芸大学 大学院

シラバス [2021 年度版]

工芸学研究科 建築学専攻**美術工芸科目**

美術工芸特論	…	1
インテリアデザイン特論	…	2
都市環境と芸術	…	3
工芸とデザイン	…	4

専門特論科目

伝統建築特論Ⅰ	…	5
伝統建築特論Ⅱ	…	6
建築計画特論Ⅰ	…	7
建築計画特論Ⅱ	…	8
建築設計特論Ⅰ	…	9
建築設計特論Ⅱ	…	10

専門特論科目

建築デザイン特別演習Ⅰ	…	11
建築デザイン特別演習Ⅱ	…	12
建築学特別研究Ⅰ	…	13
建築学特別研究Ⅱ	…	14
インターンシップⅠ	…	15
インターンシップⅡ	…	16

科目名	美術工芸特論	配当年次	1・2年次
科目英語名	Theory of Art and Craft , Adv.	科目区分	美術工芸科目
科目コード	—	履修コード	—
必修選択区分	選択	単位数	2単位
授業形態	講義	開講期	前期
担当教員	岡 達也 (助教)		
授業概要	美術と工芸はどこが違うのか。近代以降、日本でも主に用途の有無によって美術と工芸が分けられて来たが、現代においてその壁を越える概念が現れつつある。美術作家及び工芸作家の作品を通して美術と工芸の距離について、さらに美術と工芸の遠近を探る。		
到達目標	美術と工芸の違いや関連性を学び、様々な作品の考察を通して美術工芸に関する造詣を深める。		
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 講義概要・履修指導 : なぜ美術と工芸を語るのか</p> <p>第2回 「用の美」と民藝運動</p> <p>第3回 美術と工芸の違い(1) 「区別のあいまいさ、または共通する点」</p> <p>第4回 美術と工芸の違い(2) 「コンセプチュアリズムとオリジナリティの観点から」</p> <p>第5回 美術と工芸の違い(3) 「ハイアートとローアートの観点から」</p> <p>第6回 伝統工芸とは「“伝統”と“工芸”はなぜ結びつきやすいのか」</p> <p>第7回 現代工芸とは「“現代工芸”の歴史的な成り立ち」</p> <p>第8回 近代美術とは「近代美術の定義」</p> <p>第9回 現代美術とは「現代美術の定義」</p> <p>第10回 伝統工芸作家の作品と考察 (ディスカッション)</p> <p>第11回 現代工芸作家の作品と考察 (ディスカッション)</p> <p>第12回 近代美術作家の作品と考察 (ディスカッション)</p> <p>第13回 現代美術作家の作品と考察 (ディスカッション)</p> <p>第14回 美術工芸とモダニズム建築</p> <p>第15回 総括</p>		
教科書	適宜資料を配布する。		
参考書 参考資料	特になし		
予習・復習指導	<p>—講義 (1コマ) に対して4.5時間の予習復習をすること。</p> <p>(特記事項)</p> <p>特になし</p>		
関連科目	工芸とデザイン		
履修上の注意	少人数の講義授業のため、教員との活発なディスカッションを期待する。		
成績評価	ディスカッションの内容 (30点満点)、レポート (70点満点) を100点満点で評価し、その合計が60点以上を合格とする。		

科目名	インテリアデザイン特論	配当年次	1・2年次
科目英語名	Theory of Interior Design , Adv.	科目区分	美術工芸科目
科目コード	—	履修コード	—
必修選択区分	選択	単位数	2単位
授業形態	講義	開講期	後期
担当教員	新海 俊一(教授)		
授業概要	インテリアデザインの視点から、住宅から商空間、公共空間、展示空間などの様々なインテリア事例を通してその成り立ちを考察し、人とライフスタイルが及ぼすインテリアとの関係性などのコンセプトや手法を解説。ディスカッションを行いより深い理解へと導く。		
到達目標	インテリアを計画する際の基本的な知識、思考法を獲得する。また、具体的な事例を題材としてデザインプロセスの手法を理解する。		
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 講義概要・履修指導 第2回 ライフスタイルとインテリアとの関連性 第3回 ユニバーサルデザインとインテリア 第4回 インテリアデザインとエルゴノミクス 第5回 インテリア素材の新素材、新工法 第6回 インテリアの照明計画 第7回 インテリアの色彩計画 第8回 住空間のインテリアデザイン事例の考察(その1) 第9回 住空間のインテリアデザイン事例の考察(その2) 第10回 公共空間のインテリアデザイン事例の考察 第11回 商空間のインテリアデザイン事例の考察(その1) 第12回 商空間のインテリアデザイン事例の考察(その2) 第13回 オフィス空間のインテリアデザイン事例の考察 第14回 展示空間のインテリアデザイン事例の考察 第15回 総括：インテリアデザインの可能性</p>		
教科書	適宜資料を配布する。		
参考書 参考資料	特になし		
予習・復習指導	<p>一講義(1コマ)に対して4.5時間の予習復習をすること。</p> <p>(特記事項) 特になし</p>		
関連科目	建築計画特論Ⅰ・Ⅱ、建築設計特論Ⅰ・Ⅱ		
履修上の注意	少人数の講義授業のため、教員との活発なディスカッションを期待する。		
成績評価	ディスカッションの内容(30点満点)、レポート(70点満点)を100点満点で評価し、その合計が60点以上を合格とする。		

科目名	都市環境と芸術	配当年次	1・2年次
科目英語名	Urban Environment and Art	科目区分	美術工芸科目
科目コード	—	履修コード	—
必修選択区分	選択	単位数	2単位
授業形態	講義	開講期	前期
担当教員	新海 俊一（教授）		
授業概要	都市環境を形成する上での様々な要素、特に人々の暮らしぶりが表出する街路、広場、公園等がもたらす文化的価値および芸術性について解説する。フィールドサーベイを通して観察しうる人々の行動とそれにより形成される空間を中心とした景観的観点からのありようを考察する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・都市生活と都市環境の関係性を理解する ・都市景観デザインの意義、役割を理解する ・都市景観デザインの手法を理解する 		
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 講義概要・履修指導 : 都市環境の生成 日本と欧米の違い 1</p> <p>第2回 都市環境の生成 日本と欧米の違い 2</p> <p>第3回 都市環境の生成 日本と欧米の違い 3</p> <p>第4回 都市景観と大型施設（土木、建築施設）</p> <p>第5回 都市景観と色彩</p> <p>第6回 都市景観と広場と生活</p> <p>第7回 都市景観と環境アート・彫刻</p> <p>第8回 都市景観と屋外広告</p> <p>第9回 都市景観と公共サイン</p> <p>第10回 フィールドサーベイの意義 1</p> <p>第11回 フィールドサーベイの意義 2</p> <p>第12回 都市景観デザイン事例 1</p> <p>第13回 都市景観デザイン事例 2</p> <p>第14回 都市景観デザイン事例 3</p> <p>第15回 都市環境のこれから</p>		
教科書	適宜資料を配布する。		
参考書 参考資料	「日本の都市空間」彰国社 「バタンランゲージ」C.アレグザンダー 「都市と広場」ポールズッカー		
予習・復習指導	<p>一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。</p> <p>（特記事項） 特になし</p>		
関連科目	建築デザイン特別演習Ⅰ・Ⅱ		
履修上の注意	校外活動の際は大人として責任ある行動をとる。		
成績評価	授業態度（積極性）（30点満点）、定期試験（70点満点）を100点満点で評価し、その合計が60点以上を合格とする。		

科目名	工芸とデザイン	配当年次	1・2年次
科目英語名	Applied Arts and Design	科目区分	美術工芸科目
科目コード	—	履修コード	—
必修選択区分	選択	単位数	2単位
授業形態	講義	開講期	後期
担当教員	岡 達也（助教）		
授業概要	日本の近代化の過程のなかで、工芸とデザインは相互に関係しつつ発展してきた。こうした歴史的な側面を踏まえ、具体的な作品や事例を概観することで工芸とデザインの基礎概念について考える。同時にそれらを歴史と分野を横断する連続的な事象とすることで、現代の工芸とデザインにおける相互関係の可能性について検討する。		
到達目標	工芸とデザインそれぞれの基礎概念とその展開について理解を深める。		
授業計画 授業内容	全15回 第1回 講義概要・履修指導 第2回 「工芸」と「デザイン」の概念 1 第3回 「工芸」と「デザイン」の概念 2 第4回 工芸とデザイン —言葉と制度 1 第5回 工芸とデザイン —言葉と制度 2 第6回 工芸とデザイン —制作と鑑賞／使用 1 第7回 工芸とデザイン —制作と鑑賞／使用 2 第8回 工芸とデザイン —消費と流通 1 第9回 工芸とデザイン —消費と流通 2 第10回 工芸とデザイン —都市と地域性 1 第11回 工芸とデザイン —都市と地域性 2 第12回 現代の工芸とデザイン 1 第13回 現代の工芸とデザイン 2 第14回 現代の工芸とデザイン 3 第15回 総括		
教科書	適宜資料を配布する。		
参考書 参考資料	長田謙一・樋田豊郎・森仁史 編『近代日本デザイン史』美学出版，2006年 柏木博 監修『近代デザイン史』武蔵野美術大学出版局，2006年		
予習・復習指導	—講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 （特記事項） 特になし		
関連科目	美術工芸特論		
履修上の注意	特になし		
成績評価	小レポート（30点満点）、期末レポート（70点満点）を100点満点で評価し、その合計が60点以上を合格とする。		

科目名	伝統建築特論Ⅰ	配当年次	1年次
科目英語名	Theory of Traditional Architecture I, Adv.	科目区分	専門特論科目
科目コード	—	履修コード	—
必修選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	開講期	前期
担当教員	大上 直樹（教授）		
授業概要	伝統建築の様式をとりあげ、代表的な様式の変遷や構法、素材、意匠の特徴などに関する知識を習得する。建築史も歴史学の一環であるため、政治・経済・社会・文化などあらゆる分野と関連して考える必要があり、建築の技術を様々な面（思想・価値観・社会制度・構法・材料、施工等）から捉えて、伝統建築における高度な理論の構築を目指す。		
到達目標	各時代の伝統建築の特徴の要点について、実例をとおして、それらを成立させた文化的、社会的および技術史的背景を把握することで、伝統建築の普遍性と変化の原理を理解するとともに我国の伝統文化の本質を読み解く能力を養う。		
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 講義概要・履修指導 伝統建築の基礎① 時代区分 建築種別 構造 度量衡</p> <p>第2回 伝統建築の基礎② 古図面と歴史資料</p> <p>第3回 伝統建築の材料と構法① 木材と木工事</p> <p>第4回 伝統建築の材料と構法② 瓦、桧皮・柿、萱・葦と屋根工事</p> <p>第5回 伝統建築の歴史① 古代 寺院建築</p> <p>第6回 伝統建築の歴史② 中世1 寺院建築</p> <p>第7回 伝統建築の歴史③ 中世2 神社建築</p> <p>第8回 伝統建築の歴史④ 近世 寺院と神社建築</p> <p>第9回 伝統建築の技術① 木割術</p> <p>第10回 伝統建築の技術② 規矩術</p> <p>第11回 伝統建築の設計法① 平面の決定法とその他の建物の相互関係</p> <p>第12回 伝統建築の設計法② 断面の決定法</p> <p>第13回 伝統建築の文化財指定と調査 文化財指定と文化財行政</p> <p>第14回 伝統建築の保存修理 文化財建造物の保存修理事業の歴史と課題</p> <p>第15回 伝統建築のまとめ 総括と今後に向けての課題</p>		
教科書	適宜資料を配布する。		
参考書 参考資料	文化財講座 建築1～5 第一法規		
予習・復習指導	<p>一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。</p> <p>（特記事項） 特になし</p>		
関連科目	伝統建築特論Ⅱ、建築計画特論Ⅰ・Ⅱ		
履修上の注意	特になし		
成績評価	レポート（30点満点）、定期試験（70点満点）を100点満点で評価し、その合計が60点以上を合格とする。		

科目名	伝統建築特論Ⅱ	配当年次	1年次
科目英語名	Theory of Traditional Architecture Ⅱ, Adv.	科目区分	専門特論科目
科目コード	—	履修コード	—
必修選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	開講期	後期
担当教員	森重 幸子(准教授)		
授業概要	京町家や細街路(路地)の保全・継承・再生の意義を概説するとともに、京町家などの伝統的建築が残る生活空間の現代的再編・再生を目的としたまちづくり(コミュニティデザイン)に関する知識の習得と高度な理論の構築を目指す。授業時間内にフィールドワークおよび発表を行う。		
到達目標	京都の歴史的市街地の特徴的な存在である京町家および細街路(路地)が現在おかれている社会的状況に関する知識を習得し、それらの保全・継承・再生のための実践的能力を養う。		
授業計画 授業内容	全15回 第1回 講義概要・履修指導 第2回 京町家と社会(1) 第3回 京町家と社会(2) 第4回 京町家と社会(3) 第5回 細街路概論 第6回 細街路の現状(1) 第7回 細街路の現状(2) 第8回 細街路の現状(3) 第9回 細街路の現状(4) 第10回 フィールドワーク演習(1) 第11回 ワークショップ(1) 第12回 演習発表・講評(1) 第13回 フィールドワーク演習(2) 第14回 ワークショップ(2) 第15回 演習発表・講評(2)		
教科書	適宜資料を配布する。		
参考書 参考資料	京都市『路地保全・再生デザインガイドブック』 西村幸夫『路地からのまちづくり』学芸出版社 鳴海邦碩『都市の自由空間-街路から広がるまちづくり』学芸出版社		
予習・復習指導	一講義(1コマ)に対して4.5時間の予習復習をすること。 (特記事項) 特になし		
関連科目	伝統建築論Ⅰ、建築計画特論Ⅰ・Ⅱ		
履修上の注意	普段から市街地の状況に注意を払い、社会状況にも興味関心を持つこと。 特にフィールドワークや発表は欠席しないよう注意すること。		
成績評価	演習の成果物(30点満点)、定期試験(70点満点)を100点満点で評価し、その合計が60点以上を合格とする。		

科目名	建築計画特論 I	配当年次	1年次
科目英語名	Theory of Architectural Planning I, Adv.	科目区分	専門特論科目
科目コード	—	履修コード	—
必修選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	開講期	前期
担当教員	井上 晋一 (准教授)		
授業概要	現代社会における多様なニーズに対応する建築計画における高度な知識と技術の修得を目的とする。伝統建築と現代建築の共存・融合を考慮して、各種建築物における計画・構造・設備の総合的観点および実践的観点から、建築計画および設計の可能性を探る。		
到達目標	建築家として必要な構造的・設備的知識を含めた計画的知識を習得する。伝統建築と現代建築の共存・融合に関する知識を習得する。		
授業計画 授業内容	全15回 第1回 講義概要・履修指導 第2回 伝統建築と現代建築の共存・融合の可能性 第3回 住宅・居住空間 (1) 第4回 住宅・居住空間 (2) 第5回 教育施設 (1) 第6回 教育施設 (2) 第7回 文化施設 (1) 第8回 文化施設 (2) 第9回 医療・福祉施設 (1) 第10回 医療・福祉施設 (2) 第11回 観光・宿泊施設 (1) 第12回 観光・宿泊施設 (2) 第13回 建築のリノベーション (1) 第14回 建築のリノベーション (2) 第15回 まとめ		
教科書	適宜資料を配布する。		
参考書 参考資料	『第3版コンパクト建築設計資料集成』(丸善) 『現代建築学 建築計画2』(鹿島出版会)		
予習・復習指導	一講義(1コマ)に対して4.5時間の予習復習をすること。 (特記事項) 特になし		
関連科目	建築計画特論Ⅱ、伝統建築特論Ⅰ・Ⅱ、建築設計特論Ⅰ・Ⅱ、建築デザイン特別演習Ⅰ・Ⅱ		
履修上の注意	特になし		
成績評価	授業態度(積極性)(30点満点)、レポート(70点満点)を100点満点で評価し、その合計が60点以上を合格とする。		

科目名	建築計画特論Ⅱ	配当年次	1年次
科目英語名	Theory of Architectural Planning Ⅱ, Adv.	科目区分	専門特論科目
科目コード	—	履修コード	—
必修選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	開講期	後期
担当教員	高田 光雄（教授）		
授業概要	建築デザイン、地域社会、現代社会の把握、環境の快適性、建築の安全性、インテリアデザインなど、伝統建築と現代建築の共存・融合の視点から、これまで学習した建築計画の各専門領域の広がり相互の繋がりを理解し、より高度に空間構成をとらえる能力を養う。		
到達目標	伝統建築と現代建築の共存・融合の視点から、建築における総合性、建築と社会の関係などを理解した上で、建築をめぐる現代的課題について柔軟に対応できる、持続可能性の高い建築空間の構成力を身につける。		
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 講義概要・履修指導 第2回 伝統建築と現代建築の共存・融合の試み（1） 第3回 伝統建築と現代建築の共存・融合の試み（2） 第4回 伝統建築と現代建築の共存・融合の展望 第5回 これからの建築計画の組織とプロセス 第6回 これからの建築計画と社会システム 第7回 建築における実践と研究の新たな関係 第8回 環境的持続可能性と建築計画（1） 第9回 環境的持続可能性と建築計画（2） 第10回 社会的持続可能性と建築計画（1） 第11回 社会的持続可能性と建築計画（2） 第12回 文化的持続可能性と建築計画（1） 第13回 文化的持続可能性と建築計画（2） 第14回 研究発表・講評（1） 第15回 研究発表・講評（2）</p>		
教科書	適宜資料を配布する。		
参考書 参考資料	講義において紹介する。		
予習・復習指導	<p>—講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。</p> <p>（特記事項） 特になし</p>		
関連科目	建築計画特論Ⅰ、伝統建築特論Ⅰ・Ⅱ、建築設計特論Ⅰ・Ⅱ、建築デザイン特別演習Ⅰ・Ⅱ		
履修上の注意	特になし		
成績評価	研究発表（30点満点）、期末レポート（70点満点）を100点満点で評価し、その合計が60点以上を合格とする。		

科目名	建築設計特論 I	配当年次	1年次
科目英語名	Theory of Architectural Design I, Adv.	科目区分	専門特論科目
科目コード	—	履修コード	—
必修選択区分	選択	単位数	2単位
授業形態	講義	開講期	前期
担当教員	山内 貴博（教授）		
授業概要	建築作品の創造という動機と現実の建築設計との関連性を探る。具体的には、前半において課題解答型の設計プロセスから課題発見解決策提案型の設計プロセスについて解説する。後半においては、今日の建築に大きな影響を及ぼした近現代の建築家の思想と建築作品を通じて、建築の設計理念や手法が社会的資産としてどのように展開しているかを概観する。（見学、レポート提出も想定）		
到達目標	変化する社会にしなやかに適合するとともに、高度な専門知識と豊かな教養を発揮し、現実の課題を解決していく実践力を身に付けるための知識、技術・技能を理論的に理解することを到達目標とする。		
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 講義概要・履修指導 第2回 建築設計（デザイン）について 第3回 テーマ設定 第4回 コンセプト 第5回 ダイアグラム 第6回 建築デザイン 第7回 中間総括 第8回 レポート発表 第9回 近現代建築思想史と著名な建築について概観 第10回 プレモダン・モダニズム 第11回 ハイモダン 第12回 レイトモダン 第13回 ポストモダン 第14回 ネオモダン 第15回 総括</p> <p>※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。</p>		
教科書	適宜資料を配布する。		
参考書 参考資料	テキスト建築意匠 平尾和洋、末包伸吾他著 学芸出版社		
予習・復習指導	<p>一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。</p> <p>（特記事項） 特になし</p>		
関連科目	建築計画特論Ⅰ・Ⅱ、建築設計特論Ⅱ、インターシップⅠ・Ⅱ、建築デザイン特別演習Ⅰ・Ⅱ、建築学特別研究Ⅰ・Ⅱ		
履修上の注意	現代的問題・課題を図書・書籍、ニュース、新聞等から日々情報を得て、自らの課題として認識、意識していることが重要である。（「認識力」）また、豊かな生活実現、都市環境のあり方などに興味をもち、いろいろな場面、機会などを捉え、豊かな生活実現と都市・街などのあり方、情景などについて日々発見する心掛けが重要である。（「観察力」＋「構想力」）		
成績評価	小レポート（30点満点）、期末レポート（70点満点）を100点満点で評価し、その合計が60点以上を合格とする。		

科目名	建築設計特論Ⅱ	配当年次	1年次
科目英語名	Theory of Architectural Design II, Adv.	科目区分	専門特論科目
科目コード	—	履修コード	—
必修選択区分	選択	単位数	2単位
授業形態	講義	開講期	後期
担当教員	種村 俊昭（教授）		
授業概要	建築作品の創造という動機と現実の建築設計との関連性を探る。具体的には、前半において建築設計の実務の流れに沿って企画業務、基本構想、基本設計、実施設計、工事契約業務、設計工事監理、工事完成後業務と具体的なプロジェクトをもとに詳細に解説する。後半において、いくつかの今日的な課題となっている建築について、事例をあげながら必要とされる設計内容の解説をする。（見学、レポート提出も想定）		
到達目標	学生が自ら問題を見出し、自ら解決策を探求し新しい建築を創造して行けるための実務的な建築に関する「知識」と「技術・技能」および「デザイン力」を論理的に理解することを到達目標とする。		
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 講義概要・履修指導 第2回 建築設計の実務について 第3回 企画業務・基本構想 第4回 建築法規関連 第5回 基本・実施設計 第6回 施工計画 第7回 設計工事監理・工事完成後業務 第8回 レポート発表 第9回 今日の課題となっている建築について概観 第10回 複合福祉施設 第11回 複合社会教育施設 第12回 リノベーション 第13回 サステイナブル建築 第14回 レポート発表 第15回 総括</p> <p>※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。</p>		
教科書	適宜資料を配布する。		
参考書 参考資料	建築生産【第二版】松村秀一編著 市ヶ谷出版社		
予習・復習指導	<p>一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。</p> <p>（特記事項） 特になし</p>		
関連科目	建築計画特論Ⅰ・Ⅱ、建築設計特論Ⅰ、インターシップⅠ・Ⅱ、建築デザイン特別演習Ⅰ・Ⅱ、建築学特別研究Ⅰ・Ⅱ		
履修上の注意	現代的問題・課題を図書・書籍、ニュース、新聞等から日々情報を得て、自らの課題として認識、意識していることが重要である。（「認識力」）また、豊かな生活実現、都市環境のあり方などに興味をもち、いろいろな場面、機会などを捉え、豊かな生活実現と都市・街などのあり方、情景などについて日々発見する心掛けが重要である。（「観察力」＋「構想力」）		
成績評価	小レポート（30点満点）、期末レポート（70点満点）を100点満点で評価し、その合計が60点以上を合格とする。		

科目名	建築デザイン特別演習 I	配当年次	1年次
科目英語名	Seminar of Architectural Design I, Adv.	科目区分	専門研究科目
科目コード	—	履修コード	—
必修選択区分	選択	単位数	6単位
授業形態	演習	開講期	前期
担当教員	山内 貴博（教授）、専任教員全員		
授業概要	建築の課題を通して、設計条件分析や発想・概念のまとめ方、機能や空間の構成法、形態化、外部空間、地区、地域、都市空間へと延長した課題解決のためのデザイン力について、より高度な知識とデザイン力を養う。（学内外で実際的な設計活動に携わる建築家教員（一級建築士）で、本専攻が相応しいと認めたもの最小1名を含み、複数教員による共同指導）		
到達目標	一級建築士資格を有する複数教員からのアドバイスを受けながらスタディを進め、機能面、構造面、建築構法、環境デザインなどとも連動した、高度な設計内容の構築を目標とする。		
授業計画 授業内容	全15回 第1回 ガイダンス、課題説明 第2回 与件把握 第3回 課題分析・関連法規分析 第4回 関連事項研究1 第5回 関連事項研究2 第6回 計画案作成1 第7回 計画案作成2（構造及び設備的検討） 第8回 スタディ模型作成1 第9回 スタディ模型作成2・中間報告 第10回 詳細検討・全体計画1 第11回 詳細検討・全体計画2 第12回 詳細検討・全体計画3 第13回 図面作成1 第14回 図面作成2 第15回 最終審査（講評会）		
教科書	特になし		
参考書 参考資料	演習時間の中で配布		
予習・復習指導	一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。 （特記事項） 設計課題と類似する実例（複数）を日頃見学、視察し分析すること。		
関連科目	建築計画特論 I・II， 建築設計特論 I・II		
履修上の注意	特になし		
成績評価	提出作品の内容を、課題設定、課題の解決方法、実験・調査・提案内容、表現（文章・作図）力、プレゼンテーション力の5つの観点から総合的に評価し、100点満点のうち60点以上を合格とする。		

科目名	建築デザイン特別演習Ⅱ	配当年次	1年次
科目英語名	Seminar of Architectural Design Ⅱ, Adv.	科目区分	専門研究科目
科目コード	—	履修コード	—
必修選択区分	選択	単位数	6単位
授業形態	演習	開講期	後期
担当教員	種村 俊昭（教授）、専任教員全員		
授業概要	都市・地域の課題を通して、設計条件分析や発想・概念のまとめ方、機能や空間の構成法、形態化、外部空間、地区、地域、都市空間へと延長した課題解決のためのデザイン力について、より高度な知識とデザイン力を養う。（学内外で実際的な設計活動に携わる建築家教員（一級建築士）で、本専攻が相応しいと認めたもの最小1名を含み、複数教員による共同指導）		
到達目標	都市施設を題材とし、サステイナブル・デザインの視点から、機能面、構造面、エネルギー面における実現性や合理性の模索、デザインを裏付ける客観データの収集、都市環境との適合性などを現地サーベイをベースとしながら、高度な設計内容の構築を目標とする。		
授業計画 授業内容	全15回 第1回 ガイダンス、課題説明 第2回 与件把握 第3回 課題分析・都市計画関連法規分析 第4回 関連事項研究1（景観規制の分析） 第5回 関連事項研究2（既存街区の分析） 第6回 計画案作成1 第7回 計画案作成2 第8回 スタディ模型作成1 第9回 スタディ模型作成2・中間報告 第10回 詳細検討・全体計画1 第11回 詳細検討・全体計画2 第12回 詳細検討・全体計画3 第13回 図面作成1 第14回 図面作成2 第15回 最終審査（講評会）		
教科書	特になし		
参考書 参考資料	演習時間の中で配布		
予習・復習指導	一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。 （特記事項） 設計課題と類似する実例（複数）を日頃見学、視察し分析すること。		
関連科目	建築計画特論Ⅰ・Ⅱ，建築設計特論Ⅰ・Ⅱ		
履修上の注意	特になし		
成績評価	提出作品の内容を、課題設定、課題の解決方法、実験・調査・提案内容、表現（文章・作図）力、プレゼンテーション力の5つの観点から総合的に評価し、100点満点のうち60点以上を合格とする。		

科目名	建築学特別研究 I	配当年次	2年次																																													
科目英語名	Research of Architectural Design I, Adv.	科目区分	専門研究科目																																													
科目コード	—	履修コード	—																																													
必修選択区分	必修	単位数	6単位																																													
授業形態	演習	開講期	前期																																													
担当教員	専任教員全員																																															
授業概要	各自の研究テーマに沿って、修士研究（修士論文または修士設計）を行い、それに対して担当指導教員および建築家教員が適宜指導を行う。各自の進捗を把握するために中間発表会を適宜行い、教員および学生間で意見交換や助言を受けることで、テーマや表現の発展ができるように修士制作や論文の完成を目指す。																																															
到達目標	取り組むべき研究課題を見出し、仮説の実証に必要な調査・分析を行えること。また、推敲を重ね論もしくは制作物を構築し、その成果をプレゼンテーションでできること。																																															
授業計画 授業内容	<p>研究課題・研究計画・研究方法の策定指導、調査・実験等の内容報告と討議、修士研究作成の指導、口頭発表練習等を行う。</p> <p>全15回</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>ガイダンス</td> <td>研究内容の説明・資料紹介・日程の打合せ</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>研究課題の企画1</td> <td>既出研究資料・学会関係資料の収集と系統的分類</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>研究課題の企画2</td> <td>資料の読み合わせと評価：資料的価値の吟味、内容の妥当性・今後の問題点・拡張の可能性に関する検討</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>研究課題の企画3</td> <td>研究課題に関する主要資料の選択、追加資料の必要性・新たな課題の可能性に関する検討</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>研究課題の企画4</td> <td>研究課題の検討と策定</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>研究課題の立案1</td> <td>研究計画の検討と策定</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>研究課題の立案2</td> <td>研究方法の検討と策定</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>研究課題の立案3</td> <td>調査・実験等の実施</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>研究課題の立案4</td> <td>調査・実験等の実施</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>中間報告</td> <td>中間報告と討議</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>研究課題の展開1</td> <td>調査・実験等の結果に対する収集整理</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>研究課題の展開2</td> <td>調査・実験等の結果に対する収集整理</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>研究課題の展開3</td> <td>追加の調査・実験等の検討</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>研究課題の展開4</td> <td>追加の調査・実験等の実施</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>最終報告</td> <td>最終結果の報告と検討</td> </tr> </table>			第1回	ガイダンス	研究内容の説明・資料紹介・日程の打合せ	第2回	研究課題の企画1	既出研究資料・学会関係資料の収集と系統的分類	第3回	研究課題の企画2	資料の読み合わせと評価：資料的価値の吟味、内容の妥当性・今後の問題点・拡張の可能性に関する検討	第4回	研究課題の企画3	研究課題に関する主要資料の選択、追加資料の必要性・新たな課題の可能性に関する検討	第5回	研究課題の企画4	研究課題の検討と策定	第6回	研究課題の立案1	研究計画の検討と策定	第7回	研究課題の立案2	研究方法の検討と策定	第8回	研究課題の立案3	調査・実験等の実施	第9回	研究課題の立案4	調査・実験等の実施	第10回	中間報告	中間報告と討議	第11回	研究課題の展開1	調査・実験等の結果に対する収集整理	第12回	研究課題の展開2	調査・実験等の結果に対する収集整理	第13回	研究課題の展開3	追加の調査・実験等の検討	第14回	研究課題の展開4	追加の調査・実験等の実施	第15回	最終報告	最終結果の報告と検討
第1回	ガイダンス	研究内容の説明・資料紹介・日程の打合せ																																														
第2回	研究課題の企画1	既出研究資料・学会関係資料の収集と系統的分類																																														
第3回	研究課題の企画2	資料の読み合わせと評価：資料的価値の吟味、内容の妥当性・今後の問題点・拡張の可能性に関する検討																																														
第4回	研究課題の企画3	研究課題に関する主要資料の選択、追加資料の必要性・新たな課題の可能性に関する検討																																														
第5回	研究課題の企画4	研究課題の検討と策定																																														
第6回	研究課題の立案1	研究計画の検討と策定																																														
第7回	研究課題の立案2	研究方法の検討と策定																																														
第8回	研究課題の立案3	調査・実験等の実施																																														
第9回	研究課題の立案4	調査・実験等の実施																																														
第10回	中間報告	中間報告と討議																																														
第11回	研究課題の展開1	調査・実験等の結果に対する収集整理																																														
第12回	研究課題の展開2	調査・実験等の結果に対する収集整理																																														
第13回	研究課題の展開3	追加の調査・実験等の検討																																														
第14回	研究課題の展開4	追加の調査・実験等の実施																																														
第15回	最終報告	最終結果の報告と検討																																														
教科書	各指導教員の方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し、読み合わせることもある。																																															
参考書 参考資料	特に定めないが、自主的な要望に沿って参考資料を紹介する。																																															
予習・復習指導	<p>特になし</p> <p>(特記事項)</p> <p>ゼミ指導等に積極的に参加し、幅広い知識と技能の習得に努めること。</p>																																															
関連科目	建築学特別研究 II																																															
履修上の注意	設計実習・調査の成果を踏まえ、指導教員と密度ある議論を重ねながら、学生が主体的に修士研究のまとめを行うこと。																																															
成績評価	建築学特別研究 I の中間・最終成果品等の内容を、課題設定、課題の解決方法、実験・調査・提案内容、表現（文章・作図）力、プレゼンテーション力の5つの観点から総合的に評価し、100点満点のうち60点以上を合格とする。																																															

科目名	建築学特別研究Ⅱ	配当年次	2年次																														
科目英語名	Research of Architectural Design Ⅱ, Adv.	科目区分	専門研究科目																														
科目コード	—	履修コード	—																														
必修選択区分	必修	単位数	6単位																														
授業形態	演習	開講期	後期																														
担当教員	専任教員全員																																
授業概要	各自の研究テーマに沿って、より高度なレベルで、修士研究(修士論文または修士設計)を行い、それに対して担当指導教員が適宜指導を行う。各自の進捗を把握するために中間発表会を適宜行い、教員および学生間で意見交換や助言を受けることで、テーマや表現の発展ができるように修士制作や論文の完成を目指す。																																
到達目標	建築学特別研究Ⅰの成果を更に発展させ、豊かな内容を盛り込んだ納得の修士研究としてまとめ上げること。																																
授業計画 授業内容	<p>研究課題・研究計画・研究方法の策定指導、調査・実験等の内容報告と討議、修士研究作成の指導、口頭発表練習等を行う。</p> <p>全第15回</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回 ガイダンス</td> <td>研究内容の説明・資料紹介・日程の打合せ</td> </tr> <tr> <td>第2回 研究課題の継続1</td> <td>レビューを踏まえた研究課題の検討と確認</td> </tr> <tr> <td>第3回 研究課題の継続2</td> <td>作業の実施と結果の検討</td> </tr> <tr> <td>第4回 研究課題の継続3</td> <td>作業の実施と結果の検討</td> </tr> <tr> <td>第5回 研究課題の継続4</td> <td>作業の実施と結果の検討</td> </tr> <tr> <td>第6回 研究課題の発展1</td> <td>研究課題を支える調査・実験等を説明する丁寧な記述</td> </tr> <tr> <td>第7回 研究課題の発展2</td> <td>研究課題を支える調査・実験等を説明する丁寧な記述</td> </tr> <tr> <td>第8回 研究課題の発展3</td> <td>調査・実験等から得られたデータの分かりやすい表示</td> </tr> <tr> <td>第9回 研究課題の発展4</td> <td>調査・実験等から得られたデータの分かりやすい表示</td> </tr> <tr> <td>第10回 中間報告</td> <td>中間報告と討議</td> </tr> <tr> <td>第11回 研究課題のまとめ1</td> <td>研究成果物の構成について討議</td> </tr> <tr> <td>第12回 研究課題のまとめ2</td> <td>研究成果物の内容について討議</td> </tr> <tr> <td>第13回 研究課題のまとめ3</td> <td>最終成果品の発表、討議</td> </tr> <tr> <td>第14回 研究課題のまとめ4</td> <td>最終成果品の修正作業、展示</td> </tr> <tr> <td>第15回 最終報告</td> <td>講評会</td> </tr> </table>			第1回 ガイダンス	研究内容の説明・資料紹介・日程の打合せ	第2回 研究課題の継続1	レビューを踏まえた研究課題の検討と確認	第3回 研究課題の継続2	作業の実施と結果の検討	第4回 研究課題の継続3	作業の実施と結果の検討	第5回 研究課題の継続4	作業の実施と結果の検討	第6回 研究課題の発展1	研究課題を支える調査・実験等を説明する丁寧な記述	第7回 研究課題の発展2	研究課題を支える調査・実験等を説明する丁寧な記述	第8回 研究課題の発展3	調査・実験等から得られたデータの分かりやすい表示	第9回 研究課題の発展4	調査・実験等から得られたデータの分かりやすい表示	第10回 中間報告	中間報告と討議	第11回 研究課題のまとめ1	研究成果物の構成について討議	第12回 研究課題のまとめ2	研究成果物の内容について討議	第13回 研究課題のまとめ3	最終成果品の発表、討議	第14回 研究課題のまとめ4	最終成果品の修正作業、展示	第15回 最終報告	講評会
第1回 ガイダンス	研究内容の説明・資料紹介・日程の打合せ																																
第2回 研究課題の継続1	レビューを踏まえた研究課題の検討と確認																																
第3回 研究課題の継続2	作業の実施と結果の検討																																
第4回 研究課題の継続3	作業の実施と結果の検討																																
第5回 研究課題の継続4	作業の実施と結果の検討																																
第6回 研究課題の発展1	研究課題を支える調査・実験等を説明する丁寧な記述																																
第7回 研究課題の発展2	研究課題を支える調査・実験等を説明する丁寧な記述																																
第8回 研究課題の発展3	調査・実験等から得られたデータの分かりやすい表示																																
第9回 研究課題の発展4	調査・実験等から得られたデータの分かりやすい表示																																
第10回 中間報告	中間報告と討議																																
第11回 研究課題のまとめ1	研究成果物の構成について討議																																
第12回 研究課題のまとめ2	研究成果物の内容について討議																																
第13回 研究課題のまとめ3	最終成果品の発表、討議																																
第14回 研究課題のまとめ4	最終成果品の修正作業、展示																																
第15回 最終報告	講評会																																
教科書	各指導教員の方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し、読み合わせることもある。																																
参考書 参考資料	特に定めないが、自主的な要望に沿って参考資料を紹介する。																																
予習・復習指導	<p>特になし</p> <p>(特記事項)</p> <p>ゼミ指導等に積極的に参加し、幅広い知識と技能の習得に努めること。</p>																																
関連科目	建築学特別研究Ⅰ																																
履修上の注意	設計実習・調査の成果を踏まえ、指導教員と密度ある議論を重ねながら、学生が主体的に修士研究のまとめを行うこと。																																
成績評価	建築学特別研究Ⅱの中間・最終成果品等の内容を、課題設定、課題の解決方法、実験・調査・提案内容、表現(文章・作図)力、プレゼンテーション力の5つの観点から総合的に評価し、100点満点のうち60点以上を合格とする。																																

科目名	インターンシップ I	配当年次	1年次																					
科目英語名	Internship I	科目区分	専門研究科目																					
科目コード	—	履修コード	—																					
必修選択区分	選択	単位数	8単位																					
授業形態	実験・実習	開講期	夏季																					
担当教員	井上 晋一（准教授）、森重 幸子（准教授）																							
授業概要	1年夏季に一定期間継続して学外の一級建築士事務所に出向き、設計業務の補佐をとおして、実務の一端を体得しながら、実践的なデザイン手法及びそのプロセスを学ぶ。なお、実習先は本専攻が相応しいと判断した一級建築士事務所に限る。																							
到達目標	実務能力を養うことを目指し、設計実務における理念や展望を持続する能力、思考力や判断力等の実務能力に重点を置くものとする。また、近年の設計業務における経済面と時間面を優先する動向に対し、良識と責任感を全うできる人材の育成を目指す。																							
授業計画 授業内容	<p><研修期間> 研修日数は実質45日（360時間）（ガイダンス・報告会等を除く）とする。研修計画、報告書等の作成を含め、それぞれ5日/週×9週、4日/週×11週、3日/週×15週などを目安に研修計画を立てる。</p> <p><提出書類> 研修に先立って、研修先および研修内容の概略について担当教員と相談の上、各自の研修計画書を作成する。研修終了時には別途定める書式によって研修報告書を作成し、研修先責任者のコメント記入および押印を受けたものを提出する。</p> <p><研修内容> 原則として、下記から2分野以上についての補佐業務を体験するものとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・基本設計補佐業務（基本設計案についてのプレゼンテーション準備、模型作製等……） ・実施設計補佐業務（実施設計図の修正、照合、確認、整備等……） ・工事監理補佐業務（現場進行状況の視察・撮影、施工図のチェック等……） ・その他の補佐業務（上記各業務に関わる打合せへの参加、資料の収集整理等……） </p> <p>全15回</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>ガイダンス</td> <td>ガイダンス・概要説明</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>受入先との調整</td> <td>実習の内容、スケジュールの確認</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>実習の内容の確認</td> <td>実習の内容についての相互確認</td> </tr> <tr> <td>第4～12回</td> <td>実習1～9</td> <td>受入先の指示に従って、実習を行う</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>実習成果のまとめ1</td> <td>報告書（実習で得た知見等）の作成</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>実習成果のまとめ2</td> <td>報告書の実習先への確認・承認</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>実習の講評</td> <td>実習内容の学内プレゼンテーション</td> </tr> </table>			第1回	ガイダンス	ガイダンス・概要説明	第2回	受入先との調整	実習の内容、スケジュールの確認	第3回	実習の内容の確認	実習の内容についての相互確認	第4～12回	実習1～9	受入先の指示に従って、実習を行う	第13回	実習成果のまとめ1	報告書（実習で得た知見等）の作成	第14回	実習成果のまとめ2	報告書の実習先への確認・承認	第15回	実習の講評	実習内容の学内プレゼンテーション
第1回	ガイダンス	ガイダンス・概要説明																						
第2回	受入先との調整	実習の内容、スケジュールの確認																						
第3回	実習の内容の確認	実習の内容についての相互確認																						
第4～12回	実習1～9	受入先の指示に従って、実習を行う																						
第13回	実習成果のまとめ1	報告書（実習で得た知見等）の作成																						
第14回	実習成果のまとめ2	報告書の実習先への確認・承認																						
第15回	実習の講評	実習内容の学内プレゼンテーション																						
教科書	特になし																							
参考書 参考資料	ケースに応じて指導教員または受入れ責任者から指示がある。																							
予習・復習指導	特になし																							
	<p>（特記事項）</p> <p>各回とも、実数先からの指示により、時間外での作業を継続する。</p>																							
関連科目	建築設計特論Ⅰ・Ⅱ、建築デザイン特別演習Ⅰ・Ⅱ																							
履修上の注意	【実時間（ガイダンス・報告会等を除く）】360時間																							
成績評価	研修報告書の内容を、研修計画の立案、研修業務内容、業務の習熟度、報告書作成能力、プレゼンテーション力の5つの観点から評価し、100点満点のうち60点以上を合格とする。																							

科目名	インターンシップⅡ	配当年次	2年次																					
科目英語名	Internship Ⅱ	科目区分	専門研究科目																					
科目コード	—	履修コード	—																					
必修選択区分	選択	単位数	8単位																					
授業形態	実験・実習	開講期	夏季																					
担当教員	井上 晋一(准教授)、森重 幸子(准教授)																							
授業概要	2年夏季に一定期間継続して学外の一級建築士事務所に出向き、設計業務の補佐をとおして、実務の一端を体得しながら、実践的なデザイン手法及びそのプロセスを学ぶ。なお、実習先は本専攻が相応しいと判断した一級建築士事務所に限る。ただし、インターンシップⅠを履修した場合、異なる実習先を選択する。																							
到達目標	実務能力を養うことを目指し、設計実務における理念や展望を持続する能力、思考力や判断力等の実務能力に重点を置くものとする。また、近年の設計業務における経済面と時間面を優先する動向に対し、良識と責任感を全うできる人材の育成を目指す。																							
授業計画 授業内容	<p><研修期間> 研修日数は実質45日(360時間)(ガイダンス・報告会等を除く)とする。研修計画、報告書等の作成を含め、それぞれ5日/週×9週、4日/週×11週、3日/週×15週などを目安に研修計画を立てる。</p> <p><提出書類> 研修に先立って、研修先および研修内容の概略について担当教員と相談の上、各自の研修計画書を作成する。研修終了時には別途定める書式によって研修報告書を作成し、研修先責任者のコメント記入および押印を受けたものを提出する。</p> <p><研修内容> 原則として、下記から2分野以上についての補佐業務を体験するものとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・基本設計補佐業務(基本設計案についてのプレゼンテーション準備、模型作製等……) ・実施設計補佐業務(実施設計図の修正、照合、確認、整備等……) ・工事監理補佐業務(現場進行状況の視察・撮影、施工図のチェック等……) ・その他の補佐業務(上記各業務に関わる打合せへの参加、資料の収集整理等……) </p> <p>全15回</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>ガイダンス</td> <td>ガイダンス・概要説明</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>受入先との調整</td> <td>実習の内容、スケジュールの確認</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>実習の内容の確認</td> <td>実習の内容についての相互確認</td> </tr> <tr> <td>第4～12回</td> <td>実習1～9</td> <td>受入先の指示に従って、実習を行う</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>実習成果のまとめ1</td> <td>報告書(実習で得た知見等)の作成</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>実習成果のまとめ2</td> <td>報告書の実習先への確認・承認</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>実習の講評</td> <td>実習内容の学内プレゼンテーション</td> </tr> </table>			第1回	ガイダンス	ガイダンス・概要説明	第2回	受入先との調整	実習の内容、スケジュールの確認	第3回	実習の内容の確認	実習の内容についての相互確認	第4～12回	実習1～9	受入先の指示に従って、実習を行う	第13回	実習成果のまとめ1	報告書(実習で得た知見等)の作成	第14回	実習成果のまとめ2	報告書の実習先への確認・承認	第15回	実習の講評	実習内容の学内プレゼンテーション
第1回	ガイダンス	ガイダンス・概要説明																						
第2回	受入先との調整	実習の内容、スケジュールの確認																						
第3回	実習の内容の確認	実習の内容についての相互確認																						
第4～12回	実習1～9	受入先の指示に従って、実習を行う																						
第13回	実習成果のまとめ1	報告書(実習で得た知見等)の作成																						
第14回	実習成果のまとめ2	報告書の実習先への確認・承認																						
第15回	実習の講評	実習内容の学内プレゼンテーション																						
教科書	特になし																							
参考書 参考資料	ケースに応じて指導教員または受入れ責任者から指示がある。																							
予習・復習指導	<p>特になし</p> <p>(特記事項) 各回とも、実数先からの指示により、時間外での作業を継続する。</p>																							
関連科目	建築設計特論Ⅰ・Ⅱ、建築デザイン特別演習Ⅰ・Ⅱ																							
履修上の注意	【実時間(ガイダンス・報告会等を除く)】360時間																							
成績評価	研修報告書の内容を、研修計画の立案、研修業務内容、業務の習熟度、報告書作成能力、プレゼンテーション力の5つの観点から評価し、100点満点のうち60点以上を合格とする。																							